

資料12 高知県精神障害者スポーツ推進協議会の規約

高知県精神障害者スポーツ推進協議会 規約

(名称)

第1条 この会は高知県精神障害者スポーツ推進協議会という。

(事務局)

第2条 この会は高知市丸ノ内2-4-1 高知県立精神保健福祉センター内に事務局を置く。

(目的および事業)

第3条 この会は、精神障害を持つ人々がスポーツを楽しむ機会と環境を整備し、精神障害者スポーツ活動の普及および振興を図ることを目的とし、そのために 必要 必要な事業を行うものとする。

(会員)

第4条 この会の会員は、この会の趣旨に賛同する個人および団体のうち、理事会の承認を得たものとする。

2 この会の趣旨に賛同する個人および団体は、賛助会員となることができる。

第5条 会員になろうとする個人および団体は、別に定める会費をそえて事務局に申し込むものとする

第6条 会員は次の理由によってその資格を喪失する。

- 1 理由を付して理事会に退会届を提出し、理事会がこれを承認したとき。
- 2 会員である団体が解散したとき。
- 3 この会の目的に反する行為をなしたことによって、理事会が除名を決議したとき。
- 4 会費を2年以上滞納したとき。

(事業計画および収支決算)

第7条 この会の事業計画およびこれにともなう収支決算は、会長が編成し理事会で決議するものとする。

(経費)

第8条 この会の経費は、会費、本会への助成金、寄付金等をもってこれに充てる。

(収支決算)

第9条 この会の収支決算は、会長が作成し事業報告書とともに監事の意見を付して毎会計年度終了後、半年以内に理事会に提出し、その承認を得るものとする。

(会計年度)

第10条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(役員)

第11条 この会には次の役員をおく。

- 1 会長 (1名)
- 2 副会長 (1名)
- 3 理事 (若干名)
- 4 監事 (1名)
- 5 事務局長 (1名)

第12条 理事及び監事は会員の中から選出し、会長および副会長は理事の中から互選する。事務局長は理事の中から会長が委嘱する。

第13条 会長はこの会の業務を総理し、副会長はこの会の会長を補佐し、会長にことあるときは職務を代行する。理事は理事会を組織し、この会の業務を議決し執行する。監事はこの会の業務および財産に関して監査する。事務局長は会長を補佐し、事務局を統括してこの会の事務および業務を行う。

第14条 役員任期は3年とし、再任を妨げない。

(顧問)

第15条 この会には若干名の顧問をおくことができる。顧問は理事会の承認を得て会長が委嘱する。顧問の任期は3年とし、再任を妨げない。

(会議)

第16条 理事会は毎年1回以上会長が召集する。ただし理事現在数の半数以上の要請があった場合は、会長は速やかに理事会を召集しなければならない。

第17条 理事会の議長は会長がこれを務める。

第18条 理事会は理事現在数の過半数の出席により成立するものとする。ただし当該議題についてあらかじめ書面をもって意思を表示したものは、当該議題について出席したものとみなす。

(会費)

第19条 会員は、理事会の議決にもとづき別に定める会費を納入する。

(規約の変更)

第20条 この会の規約の変更は、理事現在数の3分の2以上の賛成を必要とする。

(付則)

1 第11条の規定にかかわらず、この会の設立当初の会長、副会長、理事、監事、事務局長は次のとおりとする。

会長	池田 久男 (高知県精神保健福祉協会会長)
副会長	山崎 正雄 (高知県立精神保健福祉センター所長)
理事	野瀬 貞暁 (日本精神科看護技術協会高知県支部)
	新井 基夫 (日本精神保健福祉士協会高知県支部)
	森尾 眞介 (高知県保健所長会)
	浜田 幸世 (高知県精神保健福祉相談員会)
	安岡 義仁 (高知県作業療法士会)
	岩村 久 (日本精神病院協会高知県支部)
	玉井 利武 (高知県精神障害者地域生活支援施設連絡会)
	近藤 御風 (高知県臨床心理協会)
	猪谷 健 (高知県精神保健福祉協会総合福祉部)
	小林 順一 (高知県立障害者スポーツセンター)
	津野 昭夫 (精神障害者スポーツ愛好組織)
	斉藤 洋 (精神科デイケア連絡会)
	家保 英隆 (高知県健康政策課)
	南部 博俊 (高知県精神障害者家族会連合会)
顧問	須藤浩一郎 (高知県精神病院協会)
監事	福井 和子 (精神保健福祉ボランティアほっとはあと)
事務局長	田所 淳子 (高知県立精神保健福祉センター)

- 2 年会費は次の通りとする
- | | |
|------------|--------|
| 団体会費（一口） | 1,000円 |
| 個人会員（一口） | 500円 |
| 団体賛助会員（一口） | 2,000円 |
| 個人賛助会員（一口） | 1,000円 |
- 3 この規約は平成13年10月26日から施行する。
この規約は平成14年5月29日から施行する。
この規約は平成14年7月31日から施行する。

Ⅳ、(財)日本障害者スポーツ協会との連携

1、(財)日本障害者スポーツ協会とは

(財)日本障害者スポーツ協会はわが国の障害者の普及・振興を図るために設置された団体で、大会開催・奨励(全国障害者スポーツ大会、ジャパンパラリンピックなど)、指導者の養成、国内関連団体との連絡・調整、スポーツ相談・指導、IPC・国際障害別競技団体への事業参画、国際大会派遣、選手強化、調査研究・情報収集、広報活動、障害者スポーツセンター受託経営などを行っている。

最近では、精神障害者スポーツを視野に入れた活動が高まっている。

2、(財)日本障害者スポーツ協会の活用

障害者スポーツに関する大会運営のノウハウ、組織づくり、競技規則など豊富な経験があり、資料として蓄積されている。

また、全国に公認障害者スポーツ指導員が2万人いるなど、人的資源も豊富である。

精神障害者スポーツに関する情報も協議会などを通じて伝達されているので、各地域にある都道府県・指定都市障害者スポーツ協会(資料13)、障害者スポーツセンター(資料14)などに相談すれば、気軽に相談に乗ってもらえる。

資料13 都道府県・指定都市障害者スポーツ協会一覧

都道府県・指定都市障害者スポーツ協会

平成14年6月11日

	団体名	郵便番号	住所	電話	FAX
1	(財)北海道障害者スポーツ振興協会	060-0002	札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センター内	011-261-6970	011-261-6201
2	特定非営利活動法人青森県障害者スポーツ協会	030-0122	青森市大字野沢字今日52-4 桜のき会館内	017-764-3050	017-764-3050
3	若手県障害者スポーツ・レクリエーション推進委員会	020-0831	盛岡市三本柳8-1-3 ふれあいランド若手内	019-637-7636	019-637-7628
4	秋田県障害者スポーツ協会	010-0522	秋田市旭北本町1-5 秋田県社会福祉会館内	018-884-2750	018-884-2750
5	宮城県障害者スポーツ協会	983-0836	仙台市宮城野区幸町4-6-2 宮城県心身障害者福祉センター内	022-257-1005	022-257-1005
6	山形県障害者スポーツ協会	980-2231	山形市大字大森385番地 山形県身体障害者福祉会館内	023-686-4084	023-686-4084
7	(財)福島県障害者スポーツ協会	960-8065	福島市杉妻町2-16 福島県探検福祉部福祉センター内	024-521-7169	024-521-7929
8	茨城県障害者スポーツ・文化協会	310-8555	水戸市五原町978-6	029-301-3375	029-301-3379
9	栃木県障害者スポーツ協会	320-8508	宇都宮市若草1-10-6 とぎ福祉プラザ内	028-624-2761	028-624-2761
10	群馬県身体障害者スポーツ協会	371-0843	前橋市新前橋町13-12	027-255-6274	027-255-6275
11	群馬県知的障害者スポーツ協会	379-2214	群馬県佐波郡赤堀町下船238-3	0270-63-2600	0270-62-8867
12	埼玉県				
13	千葉県障害者スポーツ・レクリエーション協会	260-0026	千葉市中央区千葉港4-3 千葉県社会福祉センター内	043-241-6766	043-241-6507
14	(社)東京都知的障害者スポーツ協会	110-0026	台東区秋葉原1-10 第2山本ビル3階	03-5294-6851	03-5294-6852
15	神奈川県知的障害者スポーツ振興協議会	221-0844	横浜市新神奈川区沢渡4-2 興社会福祉会館内	045-311-8137	045-324-0426
16	新潟県障害者スポーツ協会	950-0121	中越原郡亀田町向陽1-9-1	025-383-3510	025-381-1478
17	富山県障害者スポーツ協会	930-0966	富山市石金3-8-31	076-491-9873	076-491-9839
18	石川県知的障害者スポーツ協会	924-0024	小浜市北安田町548 小子園内	076-275-0516	076-275-0629
19	福井県				
20	山梨県障害者スポーツ協会	400-0005	甲府市北新1-2-12 山梨県福祉プラザ1F	055-252-0100	055-251-3344
21	長野県障害者スポーツ協会	381-0008	長野市大字下駒沢586	026-295-3661	026-295-3662
22	岐阜県障害者スポーツ協会	500-8335	岐阜市下桑袋2-2-1 岐阜県福祉会館5階 (内線2542)	058-273-1111	058-273-8008
23	(財)静岡県障害者スポーツ協会	420-0856	静岡市駿府町1-70 東島合社会福祉会館内	054-221-0062	054-221-0062
24	(社)福)愛知県社会福祉協議会障害者スポーツ振興センター	460-0001	名古屋市中区三の丸1-7-2 桜華会館1階	052-222-6635	052-222-6836
25	三重県障害者スポーツ協会	514-0113	津市一身田大古倉670-2	059-231-0155	059-231-0356
26	滋賀県障害者スポーツ協会	520-0037	大津市御陵町4-1 県立スポーツ会館内	077-522-6000	077-521-8118
27	京都障害者スポーツ振興会	605-8106	京都市左京区高野玉岡町5 京都府障害者スポーツセンター内	075-712-7010	075-712-7010
28	大阪府障害者スポーツ振興協会	540-8570	大阪市中央区大手前2丁目 大阪府健康福祉部障害者福祉センター内	06-6941-0361 (内線2460)	06-6944-6674
29	(財)兵庫県障害者スポーツ協会	650-8567	神戸市中央区山手通5-10-1 兵庫県健康福祉部障害者福祉センター内	078-362-3192	078-362-3911
30	奈良県障害者スポーツ協会	636-0244	郡山市坂本町宮森34-4 奈良県心身障害者福祉センター内	07443-3-3393	07443-3-1199
31	和歌山県身体障害者スポーツ協会	641-0014	和歌山県毛見町の浦1437-218 和歌山県子ども障害者福祉センター	073-445-7314	073-446-0038
32	和歌山県ゆうあいスポーツ協会	640-1162	和歌山県海南市上谷777-1 太陽 の丘	073-487-4352	073-487-4843

	団体名	郵便番号	住所	電話	FAX
33	鳥取県障害者スポーツ協会	685-0947	鳥取県鳥取市湖山町西3-127 鳥取県立障害者福祉センター福祉会館内	0857-28-7277	0857-28-7288
34	(財)鳥根県障害者スポーツ協会	693-0015	松江市上乃木7-1-27 鳥根勤労身体障害者体育館内	0852-20-7770	0852-21-3253
35	岡山県障害者スポーツ協会	700-8570	岡山市内山下2-4-6 岡山県保健福祉部障害福祉課内	086-226-7343	086-224-6520
36	広島県				
37	山口県障害者スポーツ協会	753-0072	山口市大手町9-6 山口県社会福祉会館2階	083-901-4085	083-901-4065
38	(財)とくしまノーマライゼーション促進協会	770-0839	徳島市かどぎき1-41 徳島県林業センター3階	088-624-2882	088-624-3388
39	香川県				
40	愛媛県身体障害者スポーツ協会	790-3553	松山市持田町3-8-15 愛媛県総合社会福祉会館内	089-921-4772	089-921-4844
41	(財)高知県障害者スポーツ振興協会	780-8066	高知市朝倉375-1 高知県立ふくし交流プラザ内	088-844-9407	088-844-9411
42	福岡県障害者スポーツ協会	816-0804	春日市藤町3-1-7 福岡県総合福祉センター6階	092-582-5223	092-582-5228
43	佐賀県身体障害者スポーツ協会	840-0851	佐賀市天祐1-8-5 佐賀県身体障害者福祉会館内	0952-29-1226	0952-29-3918
44	長崎県				
45	熊本県障害者スポーツ・文化協会	862-0939	熊本市長瀬南2-3-2 熊本県身体障害者福祉センター内	098-383-6553	098-383-6554
46	大分県身体障害者体育協会	870-8501	大分市大手町3-1-1 大分県福祉生活部障害福祉課内	097-536-1111 (内線2727)	097-533-0332
47	宮崎県障害者スポーツ協会	880-0007	宮崎市藤町2-22 宮崎県福祉総合センター内	0985-27-7417	0985-26-2650
48	鹿児島県障害者スポーツ協会	830-0021	鹿児島市小野1-1-1 ハートピアかごしま3階	099-228-6271	099-228-6710
49	沖縄県				
50	(社)札幌市障害者スポーツ振興協会	053-0802	札幌市西区二十四軒2条6丁目 札幌市身体障害者福祉センター内	011-641-8853	011-641-8968
51	仙台市障害者スポーツ協会	980-0022	仙台市青葉区五橋2-12-2 仙台市福祉プラザ内	022-267-6557	022-267-6573
52	千葉市				
53	横浜市				
54	川崎市				
55	名古屋市障害者スポーツ協会	465-0055	名古屋市名東区勢子坊2-1501 名古屋市障害者スポーツセンター内	052-703-8066	052-704-8370
56	(財)京都市障害者スポーツ協会	606-8106	京都市左京区高野玉岡町5 京都市障害者スポーツセンター内	075-702-3370	075-702-3372
57	(財)大阪市障害者スポーツ協会	546-0034	大阪市東住吉区長居公園1-32 大阪府社会福祉部障害福祉課内	06-8606-1631	06-8606-1638
58	(財)神戸市障害者スポーツ協会	651-0086	神戸市中央区堀上通3-1-32 神戸市立こころ市民福祉交流センター	078-271-5330	078-271-5367
59	広島市				
60	北九州市障害者スポーツ協会	803-9501	北九州市小倉北区城内1-1 北九州市保健福祉局障害福祉課内	093-582-2424	093-583-2425
61	福岡市障害者スポーツ・レクリエーション振興会	810-0062	福岡市中央区荒井戸3-3-39 福岡市市民福祉プラザ4階	092-781-0561	092-781-0565

資料14 全国の障害者スポーツセンターの一覧

障害者スポーツセンター

平成14年7月4日

	団体名	郵便番号	住所	電話	FAX
1	ふれあいランド岩手	020-0831	岩手県盛岡市三本柳8地割1番3	019-637-7444	019-637-7544
2	群馬県立ふれあいスポーツプラザ	376-2214	群馬県佐波郡赤碓町下船238-3	0270-62-9000	0270-62-6867
3	群馬県立ゆうあいピック記念温水プール	377-0006	群馬県高崎市行幸田3011	0279-25-3033	0279-25-3034
4	埼玉県障害者交流センター	338-8522	さいたま市大塚3-10-1	048-834-2248	048-834-3333
5	東京都障害者総合スポーツセンター	114-0033	東京都北区十条台1-2-2	03-3907-5631	03-3907-5613
6	東京都多摩障害者スポーツセンター	186-0003	国立市富士見台2-1-1	042-573-3811	042-574-8579
7	新潟県障害者交流センター	950-0121	新潟県中蒲原郡亀田町向洋1-9-1	025-381-8110	025-381-1478
8	長野障害者福祉センターサンアップル	381-0008	長野市下駒沢596	026-295-3111	026-295-3511
9	滋賀県立障害者福祉センター	525-0072	草津市南登山8-5-130	0775-64-7327	0775-64-7641
10	広島県立スポーツ交流センターおりづる	739-0036	東広島市西条町大字田口295-3	0824-25-6800	0824-25-1084
11	高知県立障害者スポーツセンター	781-0313	高知県西川郡喜野町内の谷1-1	0888-41-0021	0888-41-0065
12	障害者スポーツ文化センター横浜ラポール	222-0035	横浜市港北区鶴山町1752	045-475-2050	045-475-2053
13	名古屋市障害者スポーツセンター	465-0055	名古屋市名東区鶴子坊2-1501	052-705-6833	052-704-8370
14	京都市障害者スポーツセンター	606-8106	京都市左京区高野玉廻町5	075-702-3370	075-702-3372
15	大阪市長居障害者スポーツセンター	546-0034	大阪市東住吉区長居公園1-32	06-6697-6681	06-6697-6613
16	大阪市舞洲障害者スポーツセンター	554-0041	大阪市此花区北港白津2-1-46	06-6465-8200	06-6465-8207
17	こうべ市民福祉スポーツセンター	651-0086	神戸市中央区磯上通3-1-32	078-271-5330	078-271-5367
18	広島市中心身障害者福祉センター	732-0052	広島市東区光町2-1-5	082-261-2333	082-261-7789
19	福岡市立障害者スポーツセンター	815-0031	福岡市南区清水1-17-15	092-511-1132	092-552-3447
20	西宮市総合福祉センター	662-0913	西宮市殿崎町8-17	0798-34-3383	0798-35-1132
21	大阪府立障害者交流促進センターファインプラザ大阪	596-0137	堺市桜山台5-1-2	0722-96-6311	0722-96-6313
22	鹿児島県障害者自立交流センター(ハートピアかこしま)	890-0021	鹿児島県鹿児島市小野1-1-1	099-218-4333	099-228-6710

V、(社)日本精神保健福祉連盟「障害者スポーツ推進委員会」

1、(社)日本精神保健福祉連盟「障害者スポーツ推進委員会」の現在までの活動

社団法人日本精神保健福祉連盟は、昭和 28 年に日本精神衛生連盟として発足し、平成 7 年より日本精神保健福祉連盟と改称し現在に至っている。現在、日本精神病院協会、日本精神衛生会、全国精神障害者家族会連合会など 17 団体で構成され、精神保健福祉の向上を求めて活動を展開している。

その一環として、平成 11 年度より厚生省(当時)の意向を受けて社会福祉・医療事業団からの助成を受けながら、精神障害者スポーツ推進に関して研究・実践活動を繰り広げている。

1. 平成 11 年度の活動

平成 11 年度においては、精神障害者のスポーツの意義付けや文献的な研究、他の障害との異同等の検討、東京都作業所交流祭バレーボール大会の見学、さらに全国における精神障害者のスポーツ大会の取り組み状況に関するアンケート調査の実施など基礎的研究に取り組んだ。

全国調査の結果(46 の都道府県および一部政令指定都市から回答)では、県レベル、保健所レベル、市町村レベルでの平成 10 年度におけるスポーツ大会実施状況は予想以上に盛況であった(表 1)。ちなみに、島根県では年に 40 回以上スポーツ大会が開催されていた。

参加者の総数を見ると、複数回開催の合算では、1つの県で年間 3,000 名以上の参加がある所も数ヶ所あった。とくに興味深いのは、こうしたスポーツ大会をすでに他の障害と一緒に実施している所が予想以上にあったことである(表 2)。また、スポーツ大会に合わせてバザーやフォーラムといった他の活動を実施するケースが都道府県レベルで活発で、集客に一役かっているようだ。

一方、大会開催の技術的な側面や大会内容の質を維持するためには、スポーツ専門家の協力は不可欠と考えられ、各行政レベルにおいて 2-3 割はスポーツ専門家を関与してもらっていた。同様に、ボランティアの協力も重要な戦力で、市町村レベルの方が認識度は高いようである。

また、日本および英語圏での関係文献を検討した限り、他の諸外国においてはスペシャルオリンピックと称して知的障害者のスポーツ大会などが散見される程度で、精神障害者のスポーツ大会の開催はほとんどないようである。

ただし、各国で活用されている競技種目としては乗馬、バスケットボール、サッカー、柔道など多彩である。対象疾患もうつ病、痴呆、摂食障害など、精神分裂病者への適用が多い日本とは若干異なるようである。

2. 平成 12 年度の活動

これらの基礎データをもとに、精神障害者の全国レベルでのスポーツ大会実施を目指して動き出したのが平成 12 年度である。

まず、東京都作業所交流祭バレーボール大会にあわせて、自治体関係者向けに 2 日間にわたってスポーツセミナーを開催した。1 日目は医学・リハビリテーション上の留意点、全国の動向、実際の運営方法、資金の集め方など、かなり具体的な内容であった。そして、2 日目は実際に参加者にもバレーボール大会を見学してもらった。東京体育館において約 2,000 名が参加する大規模なもので、渋谷区ママさんバレーボールの専門家の協力を得て本格的な運営がなされていた。

さらに、平成 13 年度に宮城県で開催される第 1 回全国障害者スポーツ大会(身体障害者と知的障害者が初めて合同で実施)に向けて、精神障害者の参加可能性を探るべく、平成 13 年 3 月に仙台市において連盟関係者と地元精神保健福祉関係者との話し合いの場がもたれ

た。その結果、公開競技「ボッチャ」への精神障害者の参加や、同時期に何県かの精神障害者を集めてソフトバレーボール大会の開催を目指すことで合意された。

3. 平成 13 年度の活動

平成 13 年度の活動としては、まず 5 月に保崎秀夫連盟会長以下関係者が厚生労働省を訪れ、今田寛陸障害保健福祉部長(当時)と面会し、坂口力厚生労働大臣宛ての精神障害者スポーツ振興に関する要望書を提出した。

つぎに、精神保健福祉フォーラム「精神障害者のスポーツ振興を考える」を 6 月に高知市において、日本精神保健福祉連盟ならびに高知県立精神保健福祉センターの主催で開催した。平成 14 年には第 2 回全国障害者スポーツ大会が高知県で開催予定になっていることから、地元関係者の意識を高めるねらいがあった。120 余名の参加があり、高知県ばかりではなく近県関係者や北海道からの当事者の参加もあった。

会の前半は、当連盟の障害者スポーツ推進委員会の委員から、わが国における精神障害者スポーツの各地域での取り組み状況や当連盟の活動紹介があった。会の後半は地元高知県関係者から発表があり、さらに質疑の場では当事者家族から孤立化している当事者にもスポーツができる機会が欲しいとの切実な要望があった。

そして、9 月 20 日に仙台市において第 1 回全国精神障害者バレーボール大会が開催された。日本における全国レベルの精神障害者のスポーツ大会としては初めてと考えられ、画期的な出来事である。本大会には地元宮城県(3 チーム)をはじめ北海道、青森県、秋田県、岩手県、山形県、福島県、東京都(2 チーム)、高知県、沖縄県と、10 都道県、13 チームで約 600 名の参加があった。とくに事故や怪我もなく、無事終了できたことは大成功と評価している。なお、優勝は秋田県チーム、準優勝は福島県チームだった。

さらに、バレーボール以外の競技の可能性を視野に入れて、11 月 10 日に大分市で開催された九州・沖縄地区精神障害者ソフトボール大会に協賛し、関係者との交流をはかることができた。

また、「精神保健福祉フォーラム in 東京―第 2 回精神障害者のスポーツ推進を考える」が日本精神保健福祉連盟主催で、11 月の 2 日間にわたって開催され、約 150 名の参加があった。

一方、第 3 回全国障害者スポーツ大会開催が予定されている静岡県において、12 月 7 日に「しずおか精神障害者スポーツ推進協議会」が設立され、静岡県においても本格的な準備が始められた。

4. 平成 14 年度の活動

平成 14 年度においては、全国精神障害者バレーボール大会を全国精神障害者スポーツ大会と名称変更して計画が進められている。とりわけ、高知県関係者の努力の結果、第 2 回全国障害者スポーツ大会のオープン競技として精神障害者のためのバレーボールが正式競技種目として決定され、準公式参加のための準備が進められている。

また、全国 8 ブロックに分けてバレーボール大会を開催し、全国精神障害者スポーツ大会への参加県・参加者数の増加を目指していく計画である。そのため、全国大会開催に関するマニュアル・運営要領の作成や、競技に関する統一ルールづくりも並行して進めていくこととなる。さらに、背景基盤となる県レベルでの精神障害者スポーツ推進協議会のような組織整備・人材育成を推進していく予定である。

こうした実績を積み重ね、組織を整備していくことで、将来的には知的・身体障害者と合同の真の全国障害者スポーツ大会の実現を図っていく方針である。

もちろん、精神障害者スポーツの振興は全国大会の開催だけでなく、精神障害者や家族にとってより身近で手軽なスポーツが提供できることも視野に入れていく必要がある。

2、委員名簿

平成14年度の委員会は資料15のように構成されている。なお、平成15年度より委員会は拡充される予定である。

資料15 障害者スポーツ推進委員会の名簿

障害者スポーツ推進委員会 委員一覧

平成14年10月現在
(社)日本精神保健福祉連盟

- 委員長 大西 守 (社)日本精神保健福祉連盟 理事
- 副委員長 丸山 一郎 埼玉県立大学教授(社会福祉学科学科長)
- 事務局長 高畑 隆 埼玉県立大学助教授(社会福祉学科)
- 委員 伊東 秀幸 泰野保健福祉事務所副主幹
- 〃 桶谷 肇 (財)全国精神障害者家族会連合会 事務局長
(精神障害者社会復帰促進センター)
- 〃 小柳ゆかり 作業所オープンハウス(大田区)指導員
- 〃 白木原市次 北里大学東病院
- 〃 三村 一郎 (財)日本障害者スポーツ協会 指導部長
- 〃 大友 勝 (社)日本精神保健福祉連盟 理事
全国精神障害者地域生活支援連絡協議会ネットワーク代
表
- 〃 内田 直 東京都精神医学総合研究所 障害研究部門長

精神障害のある人のスポーツブロック大会

研究協力者 高畑 隆
分担研究者 内田 直
研究協力者 福田敬子

1. 研究の目的

精神障害のある人のスポーツ大会について、大会参加者の意見を参考に大会のあり方を検討する。

2. 研究の方法・対象

精神障害のある人のスポーツ大会の参加者を対象にアンケート調査を実施した。実施方法は大会当日の朝に配布し、大会終了後に回収した。

実施した精神障害者スポーツ大会は、①北海道・東北ブロック大会（岩手県）、②中部ブロック大会（山梨県）、③東京都大会（東京都）である。この3つの精神障害者スポーツ大会に参加した精神障害のある人を主な対象として行った。

①北海道・東北ブロック大会は2002年11月29日岩手県滝沢村で開催され、青森県、秋田県、岩手県、宮城県、福島県チームが参加して実施され、200人程度が参加した。

②中部ブロック大会は2002年11月28日甲府市で開催され、静岡県、山梨県のチームが参加して実施され、450人程度が参加した。

③東京都での精神障害者スポーツ大会は、2002年11月29日東京都体育館で都内の共同作業所が参加し実施され、2000人規模で実施された。

3. 結果

アンケートの回収は、北海道・東北ブロックは107人、中部ブロックは354人、東京都では1294人である。合計は、1755人であった。
回収したアンケート結果を以下に示す。

1) 年齢

年齢は、10歳刻みで年代別に見てみる。各年代の人数は、10代0.5%（9人）、20代20.4%（358人）、30代29.9%（524人）、40代22.3%（392人）、50代18.8%（330人）、60代5.6%（99人）、70代0.9%（16人）、無記入2.7%（47人）である。世代別では30代、40代、20代、50代、60代、70代、10代の順に多かった。スポーツ大会参加者は30代が中心と言える。

年齢別で多い順番は、40歳3.5%（63人）、30歳と31歳が3.4%（60人）、35歳と33歳が3.2%（57人）、50歳3.9%（56人）、26歳3.0%（54人）が50人以上である。

2) 性別

男性は62.6%（1098人）、女性34.8%（611人）、無記入2.6%（46人）で、男性が半数以上を占めていた。

3) 参加の役割

大会に参加した役割は、選手が55%（966人）、応援36%（632人）、見学4.2%（74人）、その他3.2%（56人）、販売0.3%（6人）、無記入1.2%（21人）である。回答者は、選手が半数を占めていた。

その他の立場について記載されている内容を見ると17項目34人である。

4) スポーツを以前にしていたか

スポーツをしていた人は、74.9%（1315人）、していない人は23.9%（419人）、無記入1.2%（21人）で、7割の人が過去に何らかのスポーツをしていた。大会に参加している人は普通にスポーツをしてきた人が多いといえる。

以前にスポーツをした時期を見ると、小学校でスポーツ経験があった人は、23%（403人）である。中学校でスポーツの経験があるのは、48%（843人）である。高校でスポーツに経験があるのは、33.4%（586人）である。その他にスポーツの経験があるのは、15.9%（279人）である。スポーツを実施した人が多いのは、中学校、高校、小学校の順に多い。

その他に記載されていた内容は、21項目111人である。

5) 現在スポーツをしている

現在スポーツをしている人は、37.7%（661人）、していない人は60.8%（1067人）、無記入1.5%（27人）である。

現在スポーツをどの程度しているかについては、毎日3.1%（54人）、週数回14.6%（257人）、月に数回17.5%（308人）、年に数回4.2%（74人）、その他2.5%（43人）、無記入58.1%（1019人）であった。月数回が最も多く、次が週数回である。

その他に記載された内容では、27項目105人である。

6) 今回の大会に向けた練習

今回の大会に向けての練習をした人は、60%（1054人）、していない人は35.4%（622人）、無記入4.5%（79人）である。選手が55%（966人）なので、今回選手として参加した人でなくても、今までの練習に参加した人が応援などで来ていると考えられる。

練習をした人の練習の期間は、3ヶ月9.6%（168人）、2ヶ月5.3%（93人）、1ヵ月12.2%（214人）、数回31.2%（547人）、その他0.8%（14人）、無記入41%（719人）である。最も多いのは、数回の練習で、そのほかには1ヶ月、3ヶ月である。

その他に記載された内容は、8項目、22人である。

7) 競技種目について

障害者スポーツ大会の正式種目は、全国障害者スポーツ大会競技規則に記載されている種目である。正式競技種目には、①個人競技としては、陸上、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、ボウリング、②団体競技としては、バスケットボール、車椅子バスケットボール、ソフトボール、グラウンドソフトボール、バレーボール、サッカー、フットベースボールである。

精神障害者は団体種目のバレーボール（ソフト球使用）1種目である。今後は、競技種目の増加について障害者スポーツ大会の正式競技の中から、他の障害者スポーツの個人種目である卓球、フライングディスク、ボウリングについて、参加したいかどうかを聞いてみた。

卓球への参加希望は29.2%（512人）、いいえ70.8%（1243人）である。フライングディスクへの参加は3.6%（63人）、いいえ96.4%（1692人）である。ボウリングへの参加は37.8%（663人）、いいえ62.2%（1092人）である。最も参加したい種目は、ボウリング、卓球の順番で、フライングディスクへの参加希望が少なかった。

その他への記載は19.8%（347人）記載がないのは80.2%（1408人）である。

次に、その他に記載された種目は、77種類276人とかなり幅広い。

8) 大会への参加で

大会の参加で、チームのまとまりの変化について見てみると、団結できる71.7%（1258人）、特に変化はない1.9%（333人）、その他4.1%（72人）、無記入5.2%（92人）である。団結できるが顕著に多く見られ、スポーツを通して人と人がつながる、気持と気持がつながる重要な素材といえる。

その他に記載された内容は、30項目、47人である。

9) 障害者スポーツの選手

障害者スポーツについて選手は、精神障害者だけで31.9%（560人）とまだまだ精神障害者だけが3割程度であった。そして、事前登録の精神障害の選手だけでは11.7%（205人）とまだまだ事前に登録しての選手による競技大会は低い水準である、登録選手がケガなどの場合に登録外の人への参加もよいとしているのは17.7%（310人）である。

その他に記載された内容では、22項目22人です。

10) 自由意見

最後に自由記載の内容についてみてみる。

記入は、北海道・東北ブロック 45 項目、117 人(6.67%)、中部ブロック 67 項目、205 人(11.68%)、東京都大会 155 項目、681 人(38.8%) が記入している。合計 267 項目、1003 人(57%) が記入している。57%の人が記入していて、かなりの人が自由に意見を記載していて、関心を持っていることが伺える。良いとの意見は 88 項目(25+36+27)、658 人 37% (84+151+423)、感想は 89 項目(5+6+78)、194 人 11.1% (11+8+175)、意見や要望は 90 項目(15+25+50)、151 人 8.6% (22+46+83) である。4 割近い人がよいとの意見を述べている。

4考察

精神障害者のスポーツ大会では、地域を越えてのブロック大会が始めて開催されている。参加者は地域の小規模作業所、社会復帰施設への通所者や精神科外来デイケア参加者といえる。従って、スポーツ参加者は、30 歳、31 歳などの 30 代を中心にして大会への参加をしていると言える。また、スポーツのルールが男性を多く参加させるためか、参加者の 6 割が男性である。従って、今後の男性メンバーに女性が参加する形式から普通の形式での国際ルールを基本としたバレーボール、男性と女性に分けた大会開催が早急に望まれる。

アンケートに回答した参加者は、選手が 5 割以上、応援が 3 割となっている。選手がアンケートに多くの意見表明が多く見られた。各項目では、その他への記載率も高くなっている。例えば、自由意見記載欄への記載率は非常に高い記載率、267 項目、1003 人が記載している。また、競技種目への意見、大会への参加についての意見記載も多く、次にスポーツの経験、現在のスポーツ、障害者スポーツの選手も記載が多く見られた。選手は、大会に参加して自らの実感を意見として、強く表明したいという気持ちになっているといえる

スポーツについては、誰もが参加しやすい活動なので、以前スポーツをしていた人は 75%と高くなっている。特に中学校や高等学校でのスポーツ経験者が多くいて、学校でのクラブ活動などでスポーツをしていたと考えられる。現在はスポーツをしていない人が 6 割を占めていた。スポーツ実施している人でも月に数回の実施で、余暇活動でのスポーツを楽しんでいる人の率が低いと言え、精神障害者の生活の質を高める余暇活動等の推進が望まれる。

今回のスポーツ大会へむけた練習では、6 割が実施しているが数回の練習が多く、レクリエーションとしてのスポーツ大会という意識レベルといえる。しかし、レクリエーションだけではなく、その人にあったスポーツ、選択できるスポーツの実施として、競技会としてのスポーツ大会の開催が望まれる。スポーツには、様々なスポーツレベルがある、例えば健康増進、余暇活動、レクリエーション、リハビリテーション、生涯スポーツなどがある。今までの精神障害者のスポーツは、レクリエーションと治療としてやりハビリテーションとしての位置付けでしかなかった。多様な選択が出来るスポーツの 1 つとして、競技会としてのスポーツも必要である。全国規模のスポーツ大会の位置付けはトップアスリートとしての競技大会であり、その大会へ向けたブロック大会を明確に競技会として位置付け、このことを精神保健福祉関係者が理解し、参加者の方々にも意識化する必要性があると考えられる。今までは、精神障害者関係者だけのスポーツの実施から、国際ルールを熟知したスポーツ専門家の参加の元にスポーツの練習・大会等を実施することが急務である。多様な人々と活動を行うことは、地域でのネットワークづくり、社会統合に大きく影響し、精神障害者の社会的障壁の改善活動、バリアフリー活動である。

新たに実施したいスポーツの個人種目は、ボウリングが最も希望者が多く、次が卓球でフライングディスクは最も少なかった。これは、デイケアや作業所などでのスポーツ種目の経験、ボウリングや卓球などが大きく影響していると考えられる。ニュースポーツの普及を精神障害者に促進する活動、支援などが必要であり、個々人が選べるスポーツの普及を地域で促進するシステムの活用等が望まれる。

さて、実際にスポーツ大会に参加してみるとチームのまとまりは、団結できると感じた人が 7 割以上と非常に高い傾向を示している。1 つの目標に向かって、同じ仲間として、スポーツは勝ち負けを争う中で、感動を参加者に与えたといえる。精神障害者は、孤立しやすい特徴をもつと言われる、この特徴に対してスポーツは人とのつながりづくりに大きく貢献しているといえる。動機に、喜怒哀楽などの感情にも (+) 効果を与えたといえる。大会参加へのプロセスを踏まえ、

大会当日の一体感は、生きている実感、生きる力を参加者の中に沸き起こしている。

障害者スポーツの選手についての基準についてはまだまだ今後の課題といえる。スポーツ競技会の選手登録については、レクリエーションとしてのスポーツの意識がまだまだ根強い状況にあると考えられる。

自由記載は、多くの方が記載している。スポーツ大会に参加した人々はその人なりに感動し、それをアンケートに記載したといえる。多くの意見は、スポーツ大会に対してよい評価を示し、また次に期待から、意見がたくさん寄せられた。

ブロック大会と都大会参加者にアンケートを行った。精神障害者スポーツ大会は、レクリエーションの意識からの参加であったが、大会に参加して多くの感動を受け、競技会での勝負による感動を実感し、スポーツ大会に参加してよかったの意見が示された。今後は、競技会としてのスポーツについて精神保健福祉関係者、本人、家族の方々得の普及啓発が急務である。そこでは、スポーツ専門家との連携づくり、システムづくりが課題である。今後、競技会の側面からさらに詳細な調査の実施も必要と考えられる。

【 資料 】

自由記載の内容について、以下に資料を示す。

3) 参加の役割

その他の立場について記載されている内容を見ると17項目34人である。

北海道東北大会では1項目1人で、係員である。中部ブロックは7項目24人で、職員(8人)、付き添い(8人)、審判(4人)、コーチ、スタッフ、看護婦、事務局(各1)などである。参加チームには病院のデイケアが多いことが理由と考えられる。東京都大会では9項目9人で、ビデオ撮り、ピンチサーバー、引率、実習、当日役員、政治的指導者、写真、補欠、選手兼応援(各1人)である。

4) 以前スポーツをしていた

その他に記載されていた内容は、21項目111人である。

内訳は、北海道・東北ブロックでは、1項目1人で社会人、病院0.1%(1人)である。中部ブロックでは、7項目25人で、現在、0.5%(8人)、大学0.3%(6人)、社会人0.2%(4人)、病院0.17%(3人)、ママさんバレー0.11%(2人)、育成会と自衛隊0.1(各1人)である。東京都大会では、13項目85人で、内訳は大学1.6%(28人)、社会人1.02%(18人)、現在0.68%(12人)、作業所等0.5%(8人)、専門学校0.17%(3人)、ママさんバレー0.17%(3人)、30代になってから0.17%(3人)、大人になってから0.17%(3人)、小学校のPTA0.11%(2人)である。また、20代になってから0.11%(2人)、大学院、サークル、前回大会0.1%(各1人)である。

5) 現在スポーツをしている

その他に記載された内容では、27項目105人である。

内訳は、北海道東北ブロックでは、3項目1人(0.1%)である。内訳は、週に1回、1ヶ月1回、1年1回が0.1%(各1人)である。中部ブロックでは、5項目5人で、月1回、週1回、時々、いろいろ、決めていないが続いている0.1%(各1人)である。東京都では、19項目、95人で、1回1.13%(20人)、月に一回1.03%(18人)、4~6ヶ月0.74%(13人)、1年間0.63%(11人)、数回0.57%(10人)、月に二回0.46%(8人)、週に一回0.4%(7人)、数ヶ月0.17%(3人)、1日0.17%(3人)、週に二回0.11%(2人)、3年以上0.11%(2人)である。また、10回以上、年に一度、3ヶ月に一度、9ヶ月、2年間、毎週、毎月、たくさんが0.1%(各1人)である。

6) 今回の大会へ向けた練習

その他に記載された内容は、8項目、22人である。

内訳は北海道東北ブロックはなし。中部ブロックは5項目19人で、1回0.57%（10人）、数回0.28%（5人）、週2回0.11%（2人）で、週に3回と1日が0.06%（各1人）である。東京都大会は3項目3人で、5回、月に一回、週に一回が0.06%（各1人）である。

7) 競技種目

その他への記載は19.8%（347人）記載がないのは80.2%（1408人）である。

障害者スポーツ大会の正式種目は、全国障害者スポーツ大会競技規則に記載されている種目である。正式競技種目には、①個人競技としては、陸上、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、ボウリング、②団体競技としては、バスケットボール、車椅子バスケットボール、ソフトボール、グラウンドソフトボール、バレーボール、サッカー、フットベースボールがある。次に、その他に記載された種目は、77種類276人である。内訳は以下に示す。

北海道・東北ブロックでは、9種目、20人で、ソフトボール0.3%（6人）、サッカー0.23%（4人）、フットサル0.17%（3人）、バスケット0.11%（2人）、水泳0.11%（2人）で、スキー、空手、テニス、野球が0.06%（各1人）である。

中部ブロックでは、29種目、62人で、サッカー0.63%（11人）、バドミントン0.34%（6人）、野球0.28%（5人）、テニス0.17%（3人）、キックベース0.17%（3人）、バスケットボール0.17%（3人）、バレーボール0.11%（2人）、ソフトボール0.11%（2人）、ゴルフ0.11%（2人）、ラグビー0.11%（2人）、ペタリング0.11%（2人）、リレー0.11%（2人）、わからない0.11%（2人）、スキー0.11%（2人）、また、陸上、ハンドボール、水泳、ビリヤード、ゲートボール、フットサル、卓球、マラソン、体操、ソフトバレー、カーリング、登山、空手、団体競技、綱引きが0.06%（各1人）である。

東京都大会では、39種目、194人で、ソフトボール1.82%（32人）、バドミントン1.37%（24人）、テニス1.37%（24人）、サッカー1.31%（23人）、野球1.03%（18人）、バスケットボール1.03%（18人）、ドッチボール0.28%（5人）、フットサル0.23%（4人）、水泳0.23%（4人）、ゴルフ0.23%（4人）、ゲートボール0.17%（3人）、キックベース0.11%（2人）、ビリヤード0.11%（2人）、綱引き0.11%（2人）、ラグビー0.11%（2人）、魚釣り0.11%（2人）、マラソン0.11%（2人）、剣道0.11%（2人）である。また、バレーボール、陸上、ハンドボール、障害物競走、空手、カルチョ、Tボール、綱跳び、軟式野球、ソフトテニス、スキー、プロレス、ダンスコンテスト、幸せの行進、シンクロナイルドスイミング、ローラーゲーム、ママチャリ競争、卓球、体操、アイスホッケー、皆が参加しやすいものであればなんでもが0.11%（各1人）である。

8) 大会への参加

その他に記載された内容は、30項目、47人である。

内訳は北海道・東北ブロックでは、6項目7人で、あると思う0.11%（2人）、楽しめる、人様々、思いやり等、団結できるが自己管理も必要、ただみななのでわからないが0.06%（各1人）である。

中部ブロックは、9項目11人で、わからない0.17%（3人）で、面白い・楽しい、意欲が高まる、地域とのつながりが出来る、活気がでた、継続して練習する、プレイヤーの違った面が見られる、交流できる、まあ地道に0.06%（各1人）である。

東京都大会は、15項目29人で、わからない0.23%（4人）、良い思い出になる0.23%（4人）、交流できる0.23%（4人）、面白い・楽しい0.17%（3人）、気分転換0.17%（3人）、とてもよい0.11%（2人）で、また、多少なりの良さはあると思う、ばらばらだった、作業以外のことができる、一行事として、豊島区以外に交流がない、余暇を楽しむ、活気がでた、それなりに団結できる、作業所全体としては難しい0.06%（各1人）である。

9) 障害者スポーツ選手

その他に記載された内容では、22項目22人です。

内訳は北海道・東北ブロックは、2項目2人で、精神障害者でもやれるところを見せたい、3障害の統合を視野0.06%（各1人）である。

中部ブロックは、6項目6人で、すべての障害者、障害者も健常者も一緒にやる、やらない、わからない、患者さんの中には精神障害者こ言葉を使うのを嫌う人がないと思う、親子で交じり合う0.06%(各1人)である。

東京都大会は、14項目14人で、他の障害を持つ方も参加する0.23%(4人)、こだわらない0.11%(2人)、多くの方が参加することが大切、別に、身体障害者も参加したい、精神障害者でも健常者でもよい、障害者の具合にもよる、参加希望者すべて、スポーツ好きな人、交流する必要がある、混合できれば良い、今のままでよい、ノーコメント、今までどおり0.06%(各1人)である。

10) 自由意見

最後に自由記載の内容についてみる。

記入は、北海道・東北ブロック45項目、117人(6.67%)、中部ブロック67項目、205人(11.68%)、東京都大会155項目、681人(38.8%)が記入している。合計267項目、1003人(57%)が記入している。57%の人が記入していて、かなりの人が自由に意見を記載していて、関心を持っていることが伺える。良いとの意見は88項目(25+36+27)、658人37%(84+151+423)、感想は89項目(5+6+78)、194人11.1%(11+8+175)、意見や要望は90項目(15+25+50)、151人8.6%(22+46+83)である。4割近い人がよいとの意見を述べている。

以下にその内訳を見てみる。

(1) 北海道・東北ブロックでは、

記入内容は45項目、117人である。内容は以下に示す。

良い評価は25項目、84人(4.78%)、感想など5項目、11人(0.63%)、意見・要望15項目、22人(0.25%)である。良い評価の意見が多い。

①良い評価(25項目、84人)

楽しかった0.63%(11人)、審判・皆様ありがとうございます0.4%(7人)、大変良かった0.34%(6人)、熱中していた0.28%(5人)、緊張感があった0.28%(5人)、また参加したい0.28%(5人)、レベルが高い大会だった0.23%(4人)、勝ってもっと試合がしたかった0.23%(4人)、勝手良かった0.17%(3人)、次ぎの大会は頑張る0.17%(3人)、自信を持った強かった0.17%(3人)、選手として参加したかった0.17%(3人)、もっとうまくなれるように練習したい0.17%(3人)、交流が出来た0.17%(3人)、次ぎの大会は頑張る0.11%(2人)、スポーツの場が出来た0.11%(2人)、これからもスポーツしたい場が欲しい0.11%(2人)、これからの人生のプラスにしたい0.11%(2人)である。また、感動を有難う、来年もよろしくお願ひします、これからもどんどんやって欲しい、楽しくやっていきたい、障害を感じさせなかった、チームがまとまった、練習の成果がでた、精神保健を知ってもらう良い機会が0.06%(各1人)である。

②感想など(5項目、11人)

いものこ汁・水ナーサビスが良かった0.28%(5人)、疲れた0.11%(2人)、負けてくやしなかった残念0.11%(2人)、絶対青森が1番、コートが広い0.06%(各1人)である。

③意見・要望(15項目、22人)

全国大会まで日があきすぎる0.17%(3人)、審判を良くして欲しい0.11%(2人)、審判がしっかりしていて良かった0.11%(2人)、進行がスムーズでない0.11%(2人)、チームのまとまりがいまいち0.11%(2人)である。また、直前の打ち合わせ時間が入りきつい、大会は冬でない方がよい、普通のバレーがしたい、チーム全体とはしていない、無事終わって良かった、最後帰ってしまう人多く閉会式が寂しく残念、リーグで行いたかった、勝ちたい気持と交流の折り合いがつかない、交流を持ちたい、交流の場が欲しい、向上できる活動がしたい0.06%(各1人)である。

(2) 中部ブロック大会は

記入は67項目、205人(11.68%)である。

内容は、良い評価36項目、151人(8.6%)、感想など6項目、8人(0.46%)、意見・要望25項目、46人(2.62%)である。良い評価がかなり多い、また、意見・要望など改善への記入も多く期待が伺える、以下にその内訳を見てみる。

①良い評価(36項目、151人)

面白くて楽しかった2.11%(37人)、良かった1.14%(20人)、一生懸命プレーしていた0.8%

(14人)、交流できて良かった0.63% (11人)、団結してチームワークが生まれた0.46% (8人)、また大会に参加したい0.28% (5人)、運動を通して自分を高める良い機会0.28% (5人)、このような大会が増えるといい0.23% (4人)、応援を頑張り・楽しくてよかった0.23% (4人)、勝ち進んでよかった0.23% (4人)、大会という目標があるとよい0.17% (3人)、これからも大会を続けて欲しい0.17% (3人)、身体を動かし汗を流すことは素晴らしいことだ0.17% (3人)、気持が良い0.11% (2人)、大会運営の方・ありがとうございます0.11% (2人)、大会に参加してよかった0.11% (2人)、参加したかった0.11% (2人)、スポーツを楽しめる0.11% (2人)、大会が盛り上がった0.11% (2人)、お弁当が美味しかった0.11% (2人)、審判が良かった0.11% (2人)、皆・上手い0.11% (2人)である。また、のびのびやった、リラックスできる、一生懸命頑張った、ご苦労様、障害者スポーツのプロスポーツがでると良い、貴重な機会だ、健康である事を嬉しく思う、たまには良い、嬉しい、熱中した、感激した、もっとしたい、良い経験になった、勉強になった、運営が良く・スムーズ0.06% (各1人)である。

②感想など(6項目、8人)

うまくなるように練習したい0.17% (3人)、会場が広い、練習試合があるとよい、テンションが高くなった、世界はひとつ、My baby I like you が0.06% (各1人)である。

③意見・要望 (25項目、46人)

負けて悔しい・残念0.57% (10人)、種目や種目数の見当をしてほしい0.34% (6人) 練習不足だった0.28% (5人)、会場の温度を考えてほしい0.17% (3人)、出場者数を増やしてはどうか0.11% (2人)である。また、負けると後がつまらない、負けたが満足、体力不足、うまくなりたい、お弁当は県全体で統一したものにしてほしい、強いチームがあるので考えてほしい、敗者や弱いチームへの配慮、敗者復活戦を、試合数を増やしてはどうか、閉会時間が早すぎる、閉会式の挨拶が多い・選手中心に、県の大会でも多く参加している、初回で、内容がつかめない、集中してできるものがあるとよい、バレーは個人プレーではなく和だ、健常者も参加したら世界が広がる、大会後が問題、盛り上がりがいまひとつ、年に一度あるとよい各0.06 (各1人)である。

(3) 東京都大会

155項目、681人 (38.8%) が記入している。

内容は、良い評価27項、423人 (24.1%)、感想など78項目、175人 (10%)、意見・要望50項目、83人 (4.7%)である。良い評価の意見がかなり多い、また感想なども多く見られる。以下に内容を示す。

①良い評価(27項、423人)

面白くて楽しかった7.3% (128人)、良かった1.8% (32人)、これからも大会を続けて欲しい1.3% (23人)、交流できて良かった1.25% (22人)、大会を楽しみにしている1.2% (21人)、大会運営の方・ありがとうございます1.14% (20人)、また大会に参加したい1.14% (20人)、緊張感がある1.08% (19人)、一生懸命頑張った1.03% (18人)、団結してチームワークが生まれた1.03% (18人)、大会に参加してよかった0.8% (14人)、大会が盛り上がった0.74% (13人)、良い気分転換でスッキリした0.63% (11人)、良い運動になる0.63% (11人)、応援を頑張り・楽しくてよかった0.51% (9人) 皆楽しそうにしていた0.34% (6人)、一生懸命プレーしていた0.34% (6人)、今後ともよろしく願います0.28% (5人)、年々・大会が定着してきている0.28% (5人)、気持が良い0.23% (4人)、皆でスポーツをするのはよい0.23% (4人)、運営が良く・スムーズ0.17% (3人)、ソフトバレーボールはよい0.17% (3人)、リラックスできる0.11% (2人)、明るい大会だ0.11% (2人)、いきいきしていた0.11% (2人)である。また、ピクニック気分がよい、時間制の試合が良かった0.06% (各1人)である。

②感想など(29+49=78項目、126+49=175人)

負けて悔しい0.68% (12人)、勝ち進んでよかった0.63% (11人)、会場が広い0.6% (10人)、皆上手い0.46% (8人)、人数が多い・大きな大会だ0.46% (8人)、練習不足だった0.4% (7人)、本当の力が出せなかった0.34% (6人)、勝ちたい0.34% (6人)、良い経験になった0.28% (5人)、立派な会場だった0.23% (4人)、コロンビア・トップさんの挨拶がなかった0.23% (4人)、がんばれ0.23% (4人)、知っている人に会った0.23% (4人)、あがってしまう0.17% (3人)、疲れた0.17% (3人)、もっとしたい0.17% (3人)、この日のために練習した0.17% (3人)、お弁当が美味しかった0.17% (3人)、バレーボールを楽しんだ0.17%

(3人)、大会に意義がある0.17%(3人)、練習の効果がでた0.11%(2人)、良い思い出になった0.11%(2人)、優勝したい0.11%(2人)、お弁当の量が多い0.11%(2人)、感激した0.11%(2人)、良い機会だ0.11%(2人)、お茶・ごちそう様でした0.11%(2人)、このルールでよい0.11%(2人)、みんなユニークな人やチームだ0.11%(2人)である。また、お弁当が楽しみ、交流会が楽しみになった、わくわくする、ほのぼのしている、励みになる、来年に向けてよいきっかけとなれば、運動能力を確認する機会だ、身体によい、試合にでたかった、大事にしたい、親しみが湧いてくる、充実した、自信になる、ベストを尽くせばよい、点数がとれた、名門チームとあたれてよかった、お土産をありがとう、協力や団結することは大事、出店しているところで買い物ができて良かった、出店もおもしろい、精神障害者が社会にとけこんでゆけたらと思う、障害者も健常者も代わらぬ気持ちで参加した、見かけだけでは判断できない、自分も精神障害だということを悟った、勝敗よりも楽しんでやれることが1番良い、参加する事に意義がある、加齢してもバレーボールが出来て嬉しい、天気がよく気持ちの良い日だった、少々の無理をおしてでも来てみた、病に負けるな、時間つぶしになった、一年が早い、歴史を感じる、「スポーツマンシップ」を知った、難関突破、身体の調子が良くてよかった、寝てしまった、眠い、参加者が1000人くらいだと思う、いい女がいた、スポーツマンシップにお「答え」はありますか、テープレコーダーも良いですね・イタリアへ行って来て下さい・励ます交流会を全人数、と9900億年毎日行っています、もう・一意気かな?、Aクイックbクイック時間差攻撃ウルトラ回転レシーブアタック No.1 558、老眼でメガネをロッカーに入れたまま。書いている文字も何もほとんど見えずで申し訳ないです、今年・アタック No. 1 (バレーボール) にでて・半分・女優さんがショックで泣くなり落ち込んだが・友達と和解があって満足です・悲しいです、線審の心証を害さないように心がけたい、参加者が多くなったように感じた、練習不足なので休憩なしで練習(仕事)をしましょう・夏の期間は仕事が終了しましたら水浴びをしたいです(各1人)がある。

③意見・要望(15+35=50項目、48+35=83人)

その他の種目もやってほしい0.46%(8人)、試合時間が短い0.4%(7人)、革バレーがやりたい0.28%(5人)、このようなスポーツの場が増えるといい0.17%(3人)、弱いチームに意欲を持たせる工夫を0.17%(3人)、もっと交流できる場にして欲しい0.11%(2人)、お茶はペットボトルにして欲しい0.11%(2人)、サブアリーナで寂しかった0.11%(2人)、商品を良くして欲しい0.11%(2人)、障害者、健常者で分けられない方がよい0.11%(2人)、試合進行を明確にしてほしい0.11%(2人)、審判がしっかりしてほしい0.11%(2人)、ボールに不満0.11%(2人)、ルールを明確に0.11%(2人)、参加費をこれ以上高くしないほしい0.11%(2人)、少し遠いので各地区に分けて行ってほしい0.11%(2人)である。また、交流できなかった、作業所でやる交流を考えるべき、大会がないとやる気がでない、メジャーな大会になればいい、年に一度あるとよい、気分を良くしたい、大変だった、のどが渇く、タバコエリアが煙い、準備運動の時間がほしい、三日間くらいでゆっくり大会を行ってほしい、試合形式について、コートがわかりにくい、種目が多いほうがよい、外でもやりたい、年齢制限も必要、全国大会のルールが厳しすぎる、女性を一名入れるルールを検討してほしい、選手交代しないでほしい、バレーボールは難しい、バレーボールは嫌だ、皆下手、売店のコーヒーが高い、売店の場所をもっと広く、出店が少なく寂しい、役員が来ないのはおかしい、時間を厳守すべき、作業所に体育館がほしい、作業所の合コンがあったらいいな、女性とデートできたらいい、「精神障害者」も国体などに参加したいという声も・職員の間にはあるようだが・国体は天皇制と深く結びついたイベントであるがゆえに、そうした考えに僕は反対だ、スポーツを楽しむ人が多くなればと思う、表の看板に「精神障害者」と大きく書かれていました・少し抵抗がありました、チーム代表者のあいさつ(簡単な作業所の説明など、試合への抱負など)があればいいと思う0.06%(各1人)である。